

## Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の記

福山市立

中条小

学校

年 目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	○「子ども主体の び」～特別支援教育 の考えを生かした個 別最適な学びの推進 ～	★		主体的に学ぶ児童を 育成するために、学 びを充実させる授業 の3Kを踏まえた授 業づくりを行う。 ・教材研究 ・関係性 ・環境づくり	①カリキュラムマ ネージメントと基礎 力の向上 ・育成したい資質・ 能力を基に教科横断 的な視点で相互の関 連付けや手立てを考 える。 ・家庭学習、読書活 動、メディア、朝食	○児童アンケートで 国語・算数の学習が 好きと答える児童を 100%にする。	□児童アンケート肯 定の評価は国語7 7%算数80%。6 月算数74%と比べ 改善傾向。また算数 の学習内容がよく分 かると回答した児童 が92%であり、主 体的な学びは継続す ることができてい る。	4	3	○「数と計算」領域 に焦点を当てた基礎 学力の向上（中条っ 子の算数に集中）を 継続して行う。 OPDCAサイクルを 意識した漢字学習 （マルチの力を活用 した）に取り組む。 ○各学級で作成した 授業ポートフォリオ に基づいて授業を行 い、形成評価等を分 析しながら授業改善 を図る。 ○全学年単元内自由 進度学習に取り組み （年間1単元以 上）、自ら学びを調 整しながら学習に取 り組ませる。 ○引き続き学びを充 実させる授業の3K を踏まえた授業づく りを行う。	<p>学ぶことが嫌いで学力が高い児童は稀である。本校の実態から、「学びの調整」をし始めた児童のなかには、意欲的に主体的に学びに向かい始めているが、結果はまだまだである児童がみられる。「好きこそ物の上手なれ」のことわざ通り、まずは「好き」（学びたい）と思えるよう取り組んでいきたい。また「学びのレディネス」としてマイナス要因が児童の背景にあるならばその改善に努める必要がある。</p>				
				②授業改善 ・個に応じたUDの 視点をもった授業づ くりと、自己選択自 己決定しながら学び に向かえる個別最適 な学びとなる授業づ くりをさらに追究す る。 ・リフレクションを 通した学びの調整	○学力の伸びを分 析、検証していく場 の設定 ・年間を通して ・学力調査等正答率 40%以下の児童の 割合	○児童アンケートで 国語・算数の学習が 好きと答える児童を 100%にする。	□正答率40%以下 の児童の割合 全国学力テスト6年 国語13%算数5 0%福山市学力テス ト5年国語43%算 数36%4年国語 7%算数7%。厳し い実態は続くが4年 において成果が見ら れる。年間を通して 個の実態を交流し個 別最適な学びと協働 的な学びの一体的な 充実を研修等で図っ てきている。	4	3		<p>児童の「学びの調整」の結果である学力実態を、明らかにし児童と共有していく必要がある。結果を分析、検証する中でその改善に向けてさらに何が必要なのかを共通認識としたい。そして児童一人一人の「学びたい」「伸びたい」に応える授業づくりを考えていくことは当然である。</p>				
				③児童の運動意欲・ 体力の向上 ・ゲーム的要素を含 んだ運動を体育やそ 他の場面で設定 し、楽しく運動でき る機会を増やす。 ・児童の運動環境 （運動器具等）の整 備や実技研修及び情 報交流を充実させ る。	児童アンケートで運 動をすることが好き と答える児童を 100%にする。	○児童アンケート肯 定の評価は88%。 体育の授業を工夫し たり、運動環境の整 備を職員が意識的に 進めたりすることが できた。 □遊びやゲーム的要 素を取り入れて、運 動することへの抵抗 感をなくす必要があ る。	3	3	○運動の目的を明確 にし、自分の目標 （記録）を伸ばした り、ゲーム感覚で運 動を楽しんだりでき るよう、体育の授業 づくりを工夫した り、休憩時間等を活 用した運動遊びを提 案したりする。	<p>学力同様、児童の運動意欲の向上を図ることで体力の向上をめざし、生涯体育に親しむ基礎を築きたい。そして児童の「できるようになりたい」「記録を伸ばしたい」そして「仲間と運動を通して楽しみたい」に応える授業づくりは上記同様である。体や心の健康があってこそ「知的欲求・自己実現」を求めていくことから、学力との関係の面からも大切となる。</p>					

3	○望ましい集団づくりの実現 ～自分を磨き、ともに学び支え合う児童の育成～		児童同士、地域や専門家等との関りを通して学び合い、自己及び集団のよりよいあり方について考える児童の育ちを支援する。 ・自治活動	①リフレクションの更なる充実 ・リフレクションを活用して、自分の成長や良さを感じることが出来る場面を設定する。 ・他者からの肯定的評価を伝え合う場を設定し、自他ともに認め合える学級・学校づくりを進める。	○児童アンケートで自分のことが好きと答える児童を100%にする。	□児童アンケート肯定的評価は85%。リフレクションを活用して、自分について振り返る場面を設定することができた。 □体育発表会練習中に他学年へのメッセージを掲示したり、通信などでリフレクションを共有したりする機会を設けたが、自分の良さを素直に受け入れることができる集団づくりの工夫が必要である。	3	3	○児童自身が自分の得意不得意を理解するだけでなく、自分の良さを自分で発見したり、他者から気付かされたりする場を多く設定し、自信をもたせる機会を設定する。	<div>集団における児童の「安心・安全」が、自己実現に向かおうとする必要条件である。お互いの良さを認め合い、共に学び伸びようとする集団づくりを進めていきたい。そのなかで「自分にはこんな良いところがあり、こんな可能性がある」そして「それを応援したり、支えてくれているのがクラスの仲間である」と思えるようにしていきたい。一人一人が自信をもって自分のことを「好き」と答えられる中条小学校にしていきたい。</div>
	○信頼される学校づくり ～学ぶ実感・やりがいの実感～	継続	教職員のやりがい・充実感の向上を図る	①子どもと向き合う時間の確保 ・校務補助員への業務依頼 ・タイムマネジメントを意識した業務遂行 ・チームとして関わりあえる体制づくり  ③学校教育活動に対する保護者や地域の方の思いや意見の把握	○教職員アンケートでこの仕事にやりがいがあると答える教職員を100%にする。	○教職員アンケートの結果、90%がやりがいを感じていると答えた。	3	3	○子どもと向き合う時間の確保に努め、子どもたちが「わかった」「できた」と思える授業づくりを行うとともに、自分の職能向上を感じられる必要がある。そのため、積極的な生徒指導・学級づくり・OJT等を継続して進める。  ○児童の言動をよく見て、適切に指導を行う。また、児童からの訴えを受け止め、即対応を行う。保護者連携も適切に行い、誠実に対応する。	<div>教職員が児童にとって最大の教育条件である。だからこそ私たちが体も心も健康で、自らの力量を高めやりがいをもって児童へ関わっていくことが、児童の成長に大きくつながっていくと考える。適切な情報共有と、それぞれの立場における責任ある業務遂行のもと、チームとして取り組む意識・態勢づくりにより、中条小の教育活動の充実、改善を図っていきたい。またそれらの教育活動すべての結果として、保護者アンケートにおいて「我が子の中条小へ通わせてよかった。中条小教育に満足している」</div>

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。